

# シリーズ5年上第7回・くわしい解説

※ 次の教材で、しっかり基礎固めをしてからシリーズに取り組みましょう。

<http://www.suguru.jp/www.monjirou.net/mini-test/baibaisoneki.pdf>

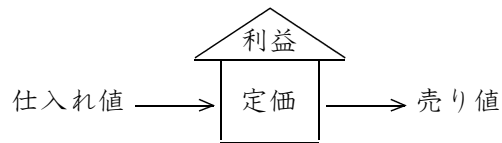
※ 2割の利益をみこんで = 2割増し = 1.2倍

※ 2割引き =  $1 - 0.2 = 0.8$ 倍

※ 利益や損は、仕入れ値をもとにする。

※ 「つるかめ算」を利用する。

※ 困ったときは、仕入れ値を  にする。



## 目次

基本	<input type="text" value="1"/>	(1) …p.2
基本	<input type="text" value="1"/>	(2) …p.2
基本	<input type="text" value="1"/>	(3) …p.2
基本	<input type="text" value="1"/>	(4) …p.3
基本	<input type="text" value="1"/>	(5) …p.3
基本	<input type="text" value="1"/>	(6) …p.3
基本	<input type="text" value="1"/>	(7) …p.4
基本	<input type="text" value="1"/>	(8) …p.4
基本	<input type="text" value="1"/>	(9) …p.4
基本	<input type="text" value="1"/>	(10) …p.5
基本	<input type="text" value="1"/>	(11) …p.6
基本	<input type="text" value="2"/>	…p.7
基本	<input type="text" value="3"/>	…p.9
基本	<input type="text" value="4"/>	…p.11
練習	<input type="text" value="1"/>	…p.12
練習	<input type="text" value="2"/>	…p.14
練習	<input type="text" value="3"/>	…p.18
練習	<input type="text" value="4"/>	…p.19
練習	<input type="text" value="5"/>	…p.21
練習	<input type="text" value="6"/>	…p.23

# すぐる学習会

<https://www.suguru.jp>

## 基本 1 (1)

**ポイント** 「仕入れ値」, 「定価」, 「利益」などのことばの意味を理解しましょう。

ある品物を 350 円で仕入れて, 仕入れ値よりも高い 500 円の定価で売れたとします。ですから,  $500 - 350 = 150$  (円) の利益があります。

## 基本 1 (2)

**ポイント** 「原価」, 「売り値」, 「利益」などのことばの意味を理解しましょう。

ある品物を何円かの原価で仕入れて, 320 円で売ると 60 円の利益があったのですから, 売り値の 320 円は原価よりも 60 円高いはずで

よって原価は,  $320 - 60 = 260$  (円) です。

## 基本 1 (3)

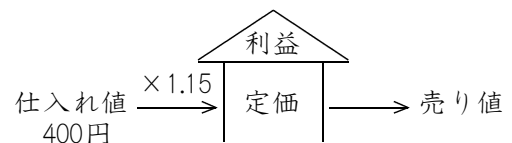
**ポイント** 「15 % の利益を見込んで」とは, 何倍にすることでしょうか。

「15 % の利益を見込んで」というのは,

「15 % 増し」ということです。

15 % とは, 0.15 倍のことですから,

「15 % 増し」というのは,  $1 + 0.15 = 1.15$  (倍) のことです。



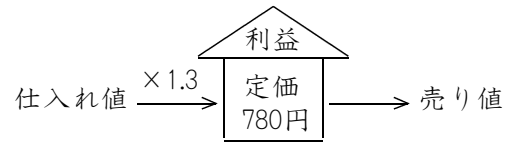
仕入れ値は 400 円で, 仕入れ値の 1.15 倍の定価をつけたのですから, 定価は,  $400 \times 1.15 = 460$  (円) です。

基本 1 (4)

ワンポイント 「3割の利益を見込んで」とは、何倍にすることでしょうか。

「3割の利益を見込んで」というのは、「3割増し」ということです。

3割とは、0.3倍のことですから、「3割増し」というのは、 $1 + 0.3 = 1.3$  (倍)のことです。



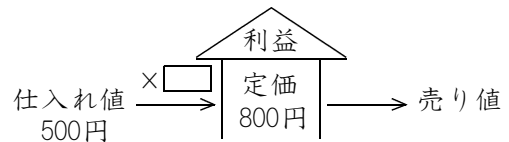
原価(仕入れ値)の1.3倍の定価をつけたら、定価が780円だったので、 $原価 \times 1.3 = 780$ 円です。

よって原価は、 $780 \div 1.3 = 600$  (円)です。

基本 1 (5)

ワンポイント 「□割増し」と「○倍」の変換を自由自在にできるようにしましょう。

仕入れ値が500円の品物が、800円の定価になったので、 $800 \div 500 = 1.6$  (倍)になりました。

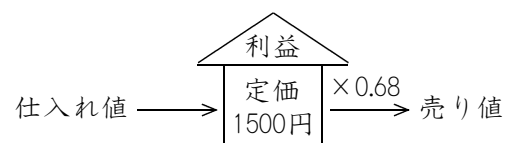


1.6倍というのは、 $1.6 - 1 = 0.6$  ですから、「6割増し」のことです。

基本 1 (6)

ワンポイント 「32%引き」とは、何倍にすることでしょうか。

32%というのは、0.32のことですから、「32%引き」というのは、 $1 - 0.32 = 0.68$  (倍)のことです。



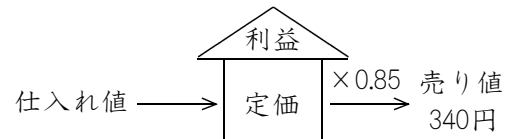
定価1500円の品物を、0.68倍で売ったので、 $1500 \times 0.68 = 1020$  (円)で売ったことになります。

基本 1 (7)

**ワンポイント** 「1割5分引き」とは、何倍にすることでしょうか。

1割5分というのは、0.15のことですから、  
「1割5分引き」というのは、 $1 - 0.15 = 0.85$  (倍)のことです。

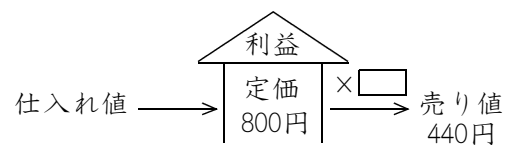
何円かの定価の品物を、0.85倍で売ったところ、  
売り値が340円になったのですから、定価は、  
 $340 \div 0.85 = 400$  (円)になります。

基本 1 (8)

**ワンポイント** たとえば「0.8倍」というのは、何%引きのことでしょうか。

定価800円の品物を、440円で売ったのですから、  
 $440 \div 800 = 0.55$  (倍)になりました。

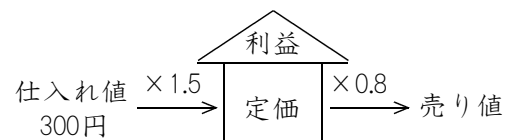
0.55倍というのは、 $1 - 0.55 = 0.45$  ですから、  
**45%** 引きのことです。

基本 1 (9)

**ワンポイント** 「5割の利益を見込んで」と「2割引き」を「□倍」の形にしましょう。

「5割の利益を見込んで」というのは、「5割増し」と  
いうことですから、 $1 + 0.5 = 1.5$  (倍)のことです。

「2割引き」というのは、 $1 - 0.2 = 0.8$  (倍)のことです。



仕入れ値は300円ですから、定価は仕入れ値の1.5倍になり、 $300 \times 1.5 = 450$  (円)です。

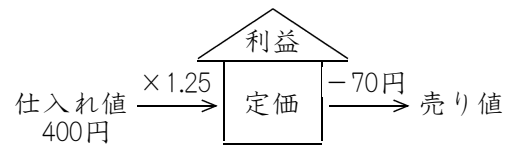
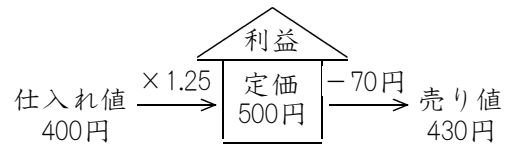
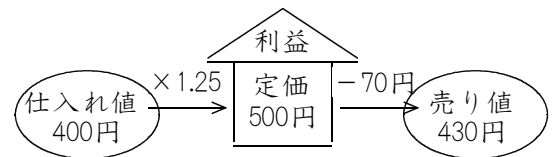
売り値は定価の0.8倍になり、 $450 \times 0.8 = 360$  (円)です。

基本 1 (10)7ポイント 利益や損は、仕入れ値をもとにして求めます。

「2割5分の利益を見込んで」というのは、「2割5分増し」ということです。

2割5分とは、0.25倍のことですから、「2割5分増し」というのは、 $1 + 0.25 = 1.25$  (倍)のことです。

仕入れ値は400円で、仕入れ値の1.25倍の定価をつけたのですから、

定価は  $400 \times 1.25 = 500$  (円)になります。さらに、定価の70円引きで売ったのですから、売り値は  $500 - 70 = 430$  (円)になります。400円で仕入れて、結局430円で売ったのですから、利益は、 $430 - 400 = 30$  (円)です。

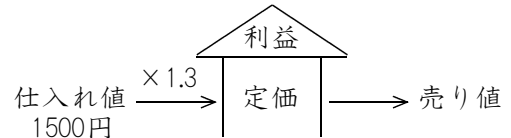
基本 1 (11)

7ポイント 利益や損は、仕入れ値をもとにして求めます。

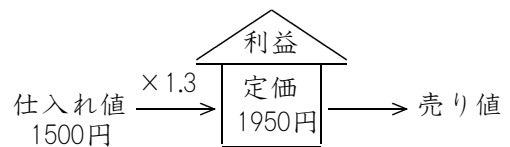
「3割の利益を見込んで」というのは、「3割増し」ということです。

3割とは、0.3倍のことですから、「3割増し」というのは、 $1 + 0.3 = 1.3$  (倍)のことです。

仕入れ値は1500円で、仕入れ値の1.3倍の定価をつけたのですから、

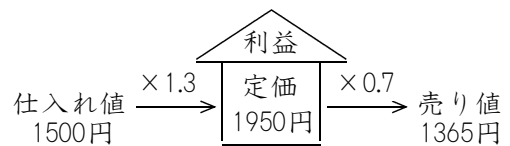


定価は  $1500 \times 1.3 = 1950$  (円)になります。



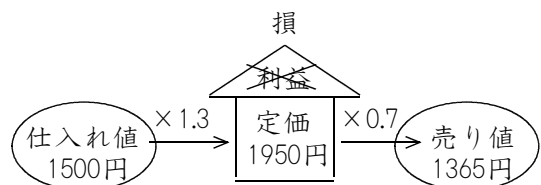
さらに、定価の3割引きで売ったのですが、「3割引き」というのは、 $1 - 0.3 = 0.7$  (倍)のことです。

よって、売り値は、 $1950 \times 0.7 = 1365$  (円)になります。



1500円で仕入れて1365円で売ったのですから、利益があるどころか、かえって損をしています。

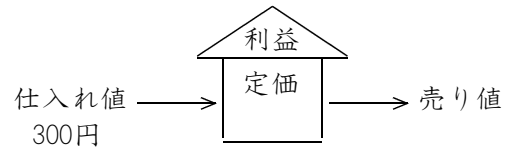
$1500 - 1365 = 135$  (円)の損をしたことになります。



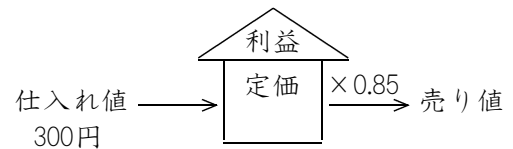
基本 2 (1)

フンポイント 図にわかっていることを書きこめば、おずかしい問題ではありません。

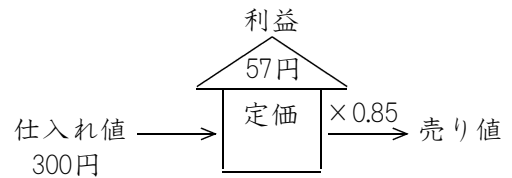
仕入れ値は 300 円です。



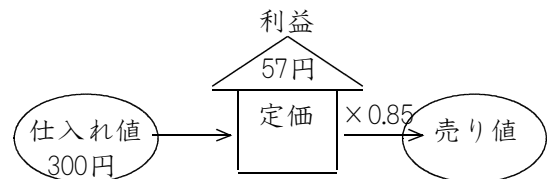
定価の 1 割 5 分引きで売ったというのは、  
定価の  $1 - 0.15 = 0.85$  (倍) で  
売ったということです。



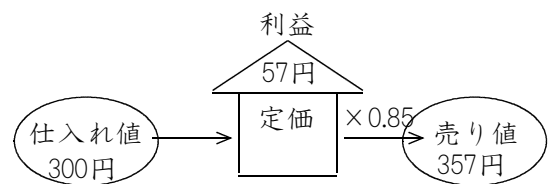
すると、利益が 57 円になりました。



利益が 57 円あったということは、  
300 円よりも、57 円だけ高い値段で  
売れた、ということです。



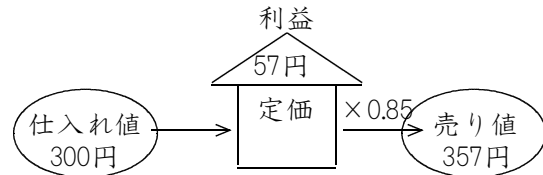
よって売り値は、 $300 + 57 = 357$  (円) になります。



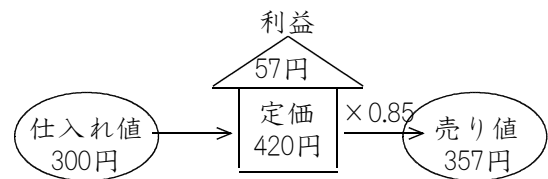
## 基本 2 (2)

**フンポイント** 図にわかっていることを書きこめば、おずかしい問題ではありません。

(1)で、右の図のように売り値が357円であることがわかりました。



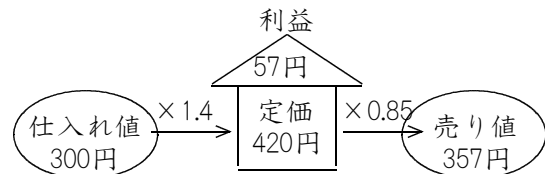
定価の0.85倍が357円ですから、  
から、定価は、 $357 \div 0.85 = 420$  (円)です。



## 基本 2 (3)

**フンポイント** 定価が仕入れ値の何倍かわかれば、どれだけの利益を見込んだかわかります。

定価は仕入れ値の、 $420 \div 300 = 1.4$  (倍)です。



1.4倍というのは、 $1.4 - 1 = 0.4$  ですから、4割増しのことです。

よって、仕入れ値に4割の利益を見込んで、定価をつけたことになります。

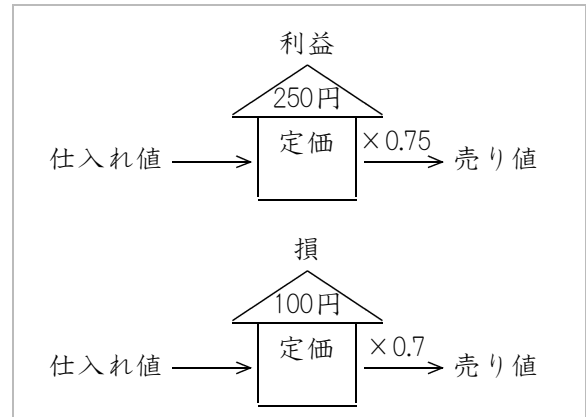


基本 3 (1)

ワンポイント よく出題される、「ちょいむず問題」です。しっかりマスターしましょう。

25%引きというのは、 $1 - 0.25 = 0.75$  (倍) のことです。  
 30%引きというのは、 $1 - 0.3 = 0.7$  (倍) のことです。

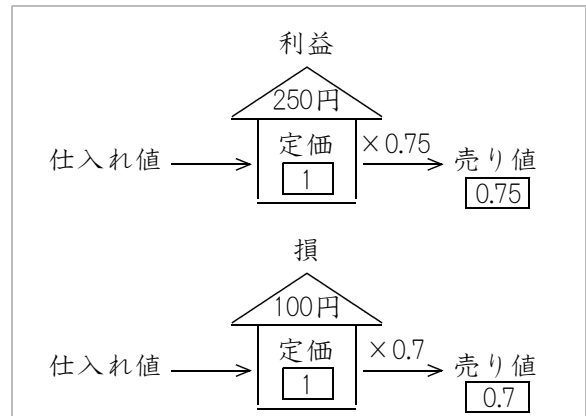
定価の0.75倍ならば、仕入れ値にくらべて250円のプラスになり、定価の0.7倍ならば、仕入れ値にくらべて100円のマイナスになるそうです。



定価を 1 とします。

1  $\times$  0.75 = 0.75 で売ると、仕入れ値よりも250円プラスになって、  
1  $\times$  0.7 = 0.7 で売ると、仕入れ値よりも100円マイナスになる、ということです。

ところで、250円プラスと、100円マイナスとのちがいは、何円でしょう。  
 $250 - 100 = 150$  (円) ではありません。



たとえば、気温がプラス5度というのと、マイナス3度というのは、 $5 - 3 = 2$  (度) ちがいでないですね。 $5 + 3 = 8$  (度) ちがいにになります。

同じようにして、250円プラスと、100円マイナスとのちがいは、 $250 + 100 = 350$  (円) ちがいにになります。

350円が、0.75 - 0.7 = 0.05 にあたります。

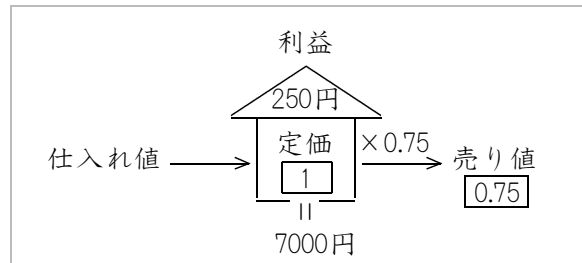
たとえば、2 が60円なら、1 は、 $60 \div 2 = 30$  (円) となるように、0.05 が350円ならば、1 は、 $350 \div 0.05 = 7000$  (円) です。

定価を 1 としたので、定価が **7000** 円であることがわかりました。

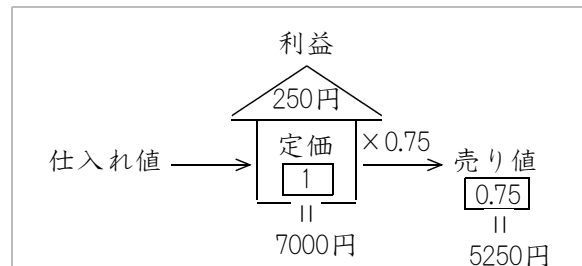
基本 3 (2)

**7ポイント** 定価がわかれば、仕入れ値は簡単にわかります。

(1)で、定価は7000円であることがわかりました。

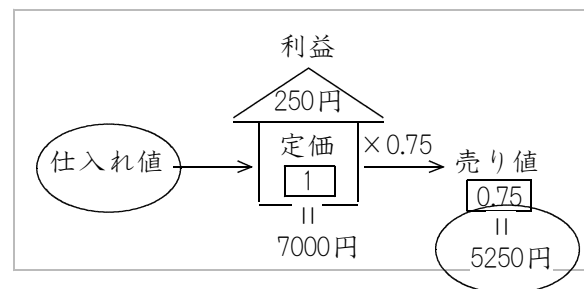


よって、右の図において、売り値は、 $7000 \times 0.75 = 5250$  (円)です。



利益が250円なのですから、仕入れ値にくらべて、売り値の方が250円高いはずです。

売り値は5250円ですから、仕入れ値は、 $5250 - 250 = 5000$  (円)です。



基本 4 (1)

ワンポイント 「4割の利益をみこんで」というのは、何倍にすることでしょうか。

「4割の利益をみこんで」は「4割増し」のことですから、 $1 + 0.4 = 1.4$ (倍)のことです。  
仕入れ値を1.4倍にして1個700円の定価をつけました。

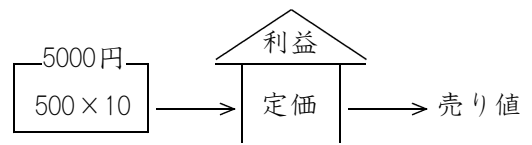
よって1個の仕入れ値は、 $700 \div 1.4 = 500$ (円)になります。

基本 4 (2)

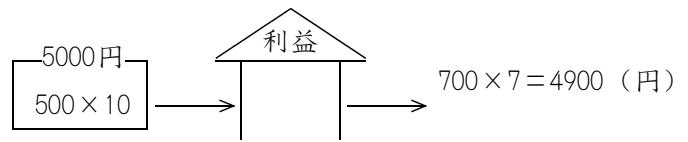
ワンポイント 1個の図ではなく、全体をまとめた図にしましょう。

(1)で求めた通り、1個の仕入れ値は500円です。

1個500円で10個仕入れたのですから、  
仕入れ値全体は、 $500 \times 10 = 5000$ (円)です。



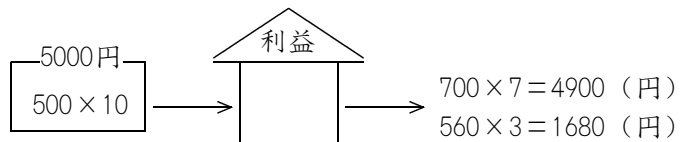
定価では7個しか売れなかったのですから、  
定価で売れた値段全体は、  
 $700 \times 7 = 4900$ (円)です。



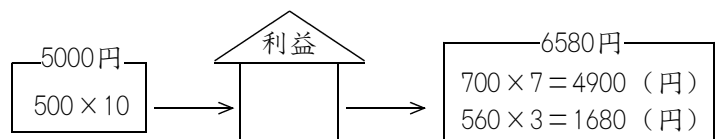
10個のうち7個は定価で売れたのですから、定価で売れなかったのは、 $10 - 7 = 3$ (個)です。  
定価で売れなかったものは、定価の2割引きで全部売りました。

定価は700円ですから、定価の2割引きは、 $700 \times (1 - 0.2) = 560$ (円)です。

値引きして売れた値段全体は、  
 $560 \times 3 = 1680$ (円)です。



売り値全体は、  
 $4900 + 1680 = 6580$ (円)  
になります。



全部で5000円で仕入れて、全部で6580円で売れたのですから、利益は、  
 $6580 - 5000 = 1580$ (円)になります。

練習 1 (1)

7ポイント 仕入れ値を1にして解くこともできますが…。

定価のまま売るよりも、定価の1割引きで売った方が、180円安くなりました。

よって、定価の1割が、180円にあたります。

定価  $\times 0.1 = 180$  円、ということです。

定価は、 $180 \div 0.1 = 1800$  (円)です。

1800円が答えではありません。なぜなら、求めるのは仕入れ値だからです。

仕入れ値の2割の利益を見込んで定価をつけたのですから、仕入れ値の  $1 + 0.2 = 1.2$  (倍)が定価です。

「仕入れ値  $\times 1.2 =$  定価」で、定価は1800円ですから、仕入れ値は  $1800 \div 1.2 = 1500$  (円)です。

別解 仕入れ値を 1 にして問題を解くこともできます。

仕入れ値に2割の利益を見込んで定価をつけたので、定価は仕入れ値の1.2倍です。

仕入れ値を 1 にしたのですから、定価は、1  $\times 1.2 =$  1.2 にあたります。

定価では売れなかったので、定価の1割引きにしました。

1割引き  $= 1 - 0.1 = 0.9$  (倍)で、定価は 1.2 にあたるので、売り値は 1.2  $\times 0.9 =$  1.08 です。

定価で売れた場合は 1.2 , 1割引で売れた場合は 1.08 ですから、その差は、  
1.2  $-$  1.08  $=$  0.12 です。

よって、180円が 0.12 にあたるので、1 あたり、 $180 \div 0.12 = 1500$  (円)です。

仕入れ値を 1 にしたのですから、仕入れ値も1500円です。

## 練習 1 (2)

**フンポイント** 600 円の利益と, 300 円の損失は, 大ちがいです。

定価のまま売ったら, 600 円の利益があるはずでした。

しかし, 値引きしたので, 600 円の利益があるどころか, 逆に 300 円の損失がありました。

600 円の利益と 300 円の損失は大ちがいで,  $600 + 300 = 900$  (円)ちがいです。

900 円ちがいにになった理由は, 定価のまま売ったのではなく, 定価の 3 割引きで売ったからです。

よって, 900 円が, 定価の 3 割にあたります。

定価  $\times 0.3 = 900$  円, ということです。

定価は,  $900 \div 0.3 = 3000$  (円)です。

仕入れ値に 600 円の利益を見込んで, 3000 円の定価をつけたのですから, 仕入れ値は,  
 $3000 - 600 = 2400$  (円)です。

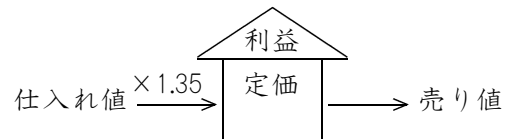
練習 2 (1)

7ポイント 困ったときは、仕入れ値を 1 にするのが鉄則です。

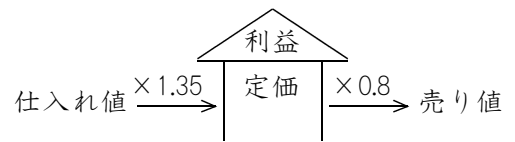
「35%の利益を見込んで」というのは、「35%増し」のことです。

35%というのは、0.35倍のことですから、「35%増し」は、 $1 + 0.35 = 1.35$  (倍)のことです。

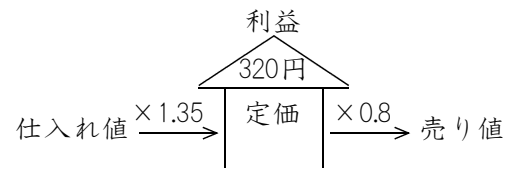
よって、仕入れ値の1.35倍の定価をつけたことになります。



そして、定価の20%引きで売りました。20%というのは0.2倍のことですから、「20%引き」は、 $1 - 0.2 = 0.8$  (倍)のことです。

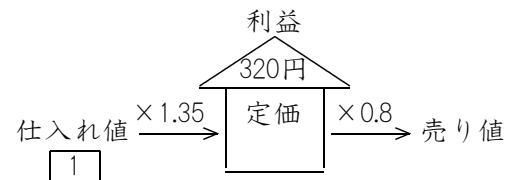


すると、320円の利益になったそうです。問題の内容をすべて書き表したものが、右の図です。

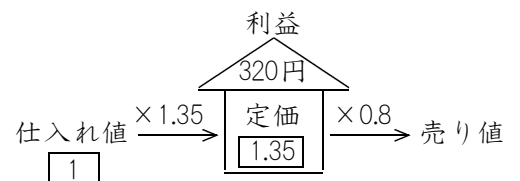


ところが図を見ても、仕入れ値や定価や売り値がどれもわからないので、問題を解くことができないように見えます。

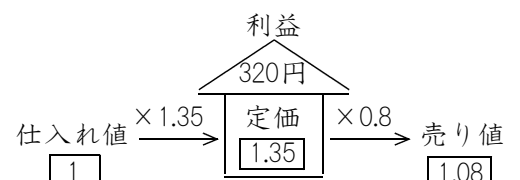
このような場合は、仕入れ値を 1 にします。



すると、定価は仕入れ値の1.35倍ですから、定価は  $1 \times 1.35 = 1.35$  になり、



売り値は定価の0.8倍ですから、売り値は  $1.35 \times 0.8 = 1.08$  になります。



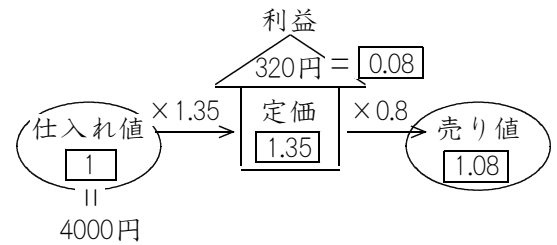
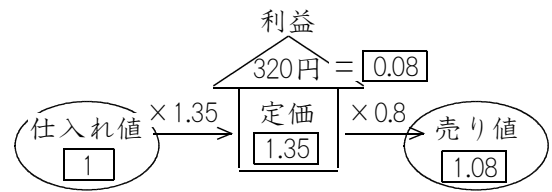
(次のページへ)

結局、 $\boxed{1}$ で仕入れて $\boxed{1.08}$ で売った  
 のですから、 $\boxed{1.08} - \boxed{1} = \boxed{0.08}$ の利益が  
 ありました。

よって、320円という利益が、 $\boxed{0.08}$ に  
 あたります。

たとえば、 $\boxed{2}$ が60円なら、 $\boxed{1}$ は、 $60 \div 2 = 30$ (円)となるように、  
 $\boxed{0.08}$ が320円ならば、 $\boxed{1}$ は、 $320 \div 0.08 = 4000$ (円)です。

仕入れ値を $\boxed{1}$ にしたのですから、  
 仕入れ値は**4000**円になります。

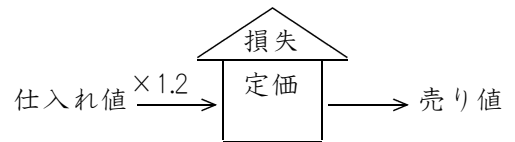


練習 2 (2)

7ポイント 困ったときは、仕入れ値を 1 にするのが鉄則です。

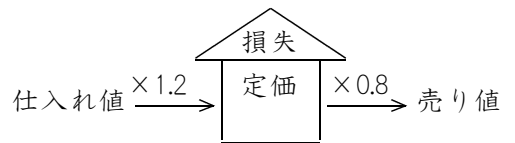
「2割」というのは、0.2倍のことですから、「2割増し」は、 $1 + 0.2 = 1.2$  (倍)のことです。

よって、仕入れ値の1.2倍の定価をつけたことになります。



そして、定価の2割引きで売りました。

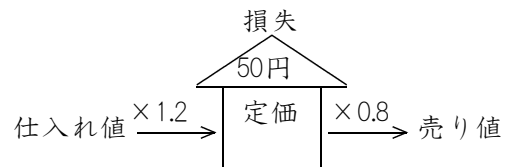
2割というのは0.2倍のことですから、「2割引き」は、 $1 - 0.2 = 0.8$  (倍)のことです。



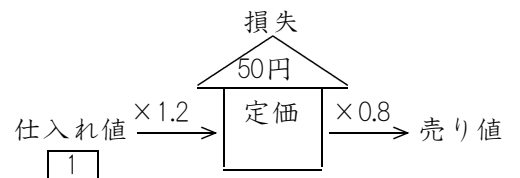
すると、50円の損失になったそうです。

問題の内容をすべて書き表したものが、右の図です。

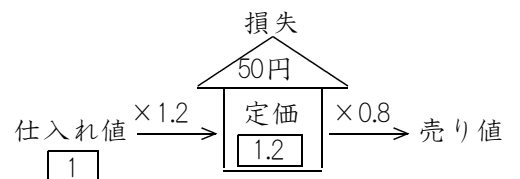
ところが図を見ても、仕入れ値や定価や売り値がどれもわからないので、問題を解くことができないように見えます。



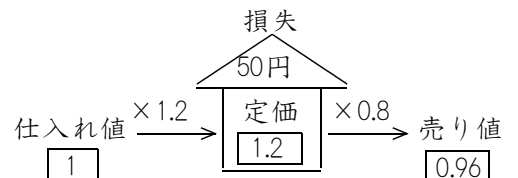
このような場合は、仕入れ値を 1 にします。



すると、定価は仕入れ値の1.2倍ですから、定価は 1  $\times 1.2 =$  1.2 になり、



売り値は定価の0.8倍ですから、売り値は 1.2  $\times 0.8 =$  0.96 になります。

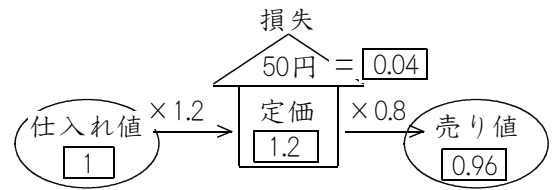


(次のページへ)



結局、 $\boxed{1}$ で仕入れて $\boxed{0.96}$ で売った  
 のですから、 $\boxed{1} - \boxed{0.96} = \boxed{0.04}$ の損失が  
 ありました。

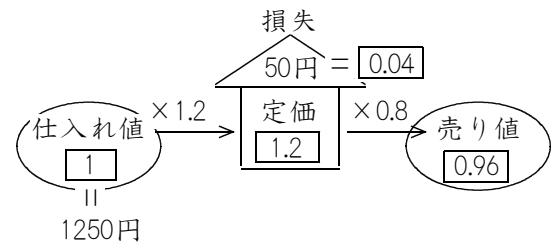
よって、50円という損失が、 $\boxed{0.04}$ にあたります。



たとえば、 $\boxed{2}$ が60円なら、 $\boxed{1}$ は、 $60 \div 2 = 30$ (円)となるように、  
 $\boxed{0.04}$ が50円ならば、 $\boxed{1}$ は、 $50 \div 0.04 = 1250$ (円)です。

仕入れ値を $\boxed{1}$ にしたのですから、  
 仕入れ値は1250円です。

この問題では、定価を求めたいので、  
 $\boxed{1.2}$ を求めることになりますから、  
 $1250 \times 1.2 = 1500$ (円)です。



**注意** 1250円を答えにするミスが多いです。気をつけましょう。

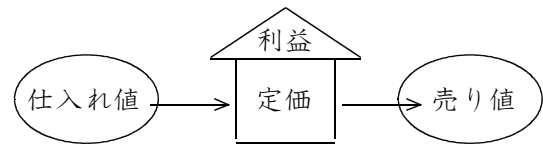
練習 3

**7ポイント** なかなか納得できない種類の問題です。

仕入れ値の「7割の利益を見込んで」ということは、「7割増しで」ということと同じです。  
 7割増し =  $(1 + 0.7)$  倍 = 1.7 倍ですから、仕入れ値の1.7倍の定価をつけました。

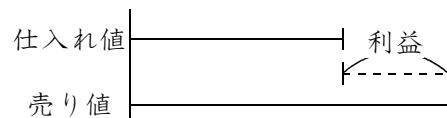
1個の定価は136円ですから、1個の仕入れ値は、 $136 \div 1.7 = 80$  (円)です。

「利益」というのは、仕入れ値に対して、  
 売り値がどれだけプラスになったか、ということ  
 ことです。

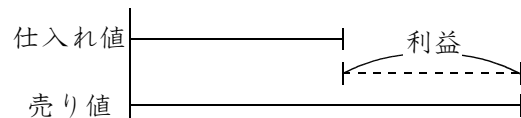


もし、仕入れ値が1000円で、売り値が  
 1200円だったとしたら、利益は  $1200 - 1000 = 200$  (円)です。

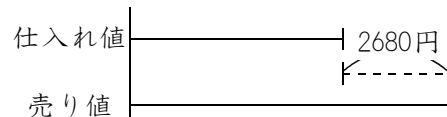
線分図にすると、右の図のように  
 仕入れ値よりも売り値の方がどれだけ多い  
 か、というのが、利益になります。



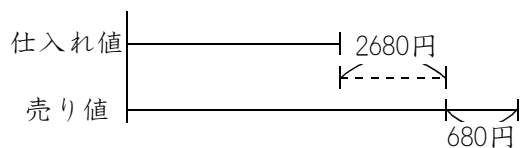
ということは、仕入れ値がまったく  
 変わらずに、売り値だけが増えたとし  
 たら、売り値が増えたぶん、利益も  
 増えることになります。



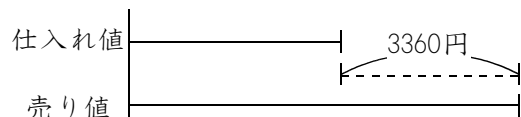
いま、5個売れ残っていても、2680円の  
 利益がありました。



もし、売れ残っていた5個を、安売りもせず  
 1個136円の定価で売ったとしたら、  
 $136 \times 5 = 680$  (円)だけよけいに売れること  
 になりますから、売り値は680円増えます。



よって、売れ残った5個も売れたとして、  
 全部売ったときの利益は、  
 $2680 + 680 = 3360$  (円)になります。



ところで、1個あたり80円で仕入れて136円で売ったのですから、1個あたり、 $136 - 80 = 56$  (円)の  
 利益があります。

どの品物も1個あたり56円の利益があって、全部で3360円の利益があったのですから、  
 $3360 \div 56 = 60$  (個)を仕入れたことになります。

練習 4 (1)

**7ポイント** 1個の図ではなく、全体をまとめた図にしましょう。

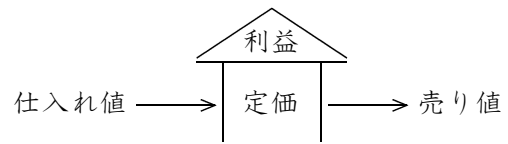
1個の仕入れ値は300円です。

仕入れ値の3割5分の利益を見込んで定価をつけたのですから、定価は原価の3割5分増し、つまり1.35倍です。

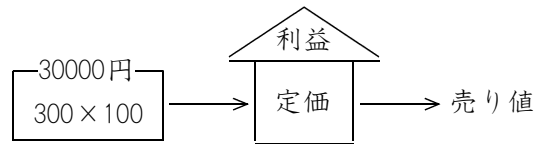
よって、1個の定価は、 $300 \times 1.35 = 405$  (円)です。

また、売れ残ったものは、定価から90円値引きして売ったのですから、 $405 - 90 = 315$  (円)で売りました。

問題文を読んでわかることを、図に少しずつ書いていきましょう。

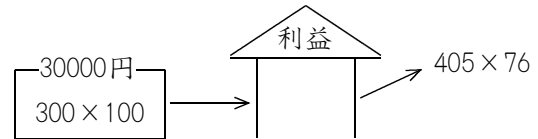


1個の仕入れ値が300円の商品を100個仕入れたので、仕入れ値全体は、 $300 \times 100 = 30000$  (円)です。

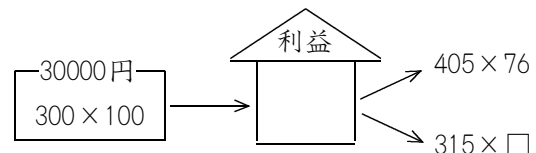


1日目は1個405円の定価をつけて売りましたが、24個売れ残りました。

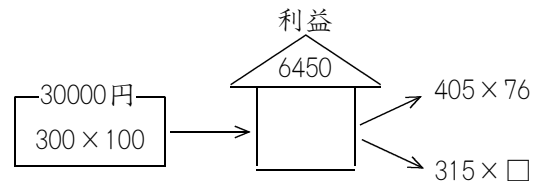
100個仕入れたのですから、1日目に売れたのは、 $100 - 24 = 76$  (個)です。



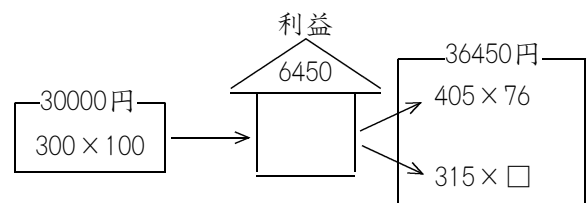
2日目は1個315円で何個か売りしました。



すると、利益は合計で6450円だったそうです。



全部で30000円ぶん仕入れて、6450円の利益があったのですから、売り上げは、 $30000 + 6450 = 36450$  (円)です。

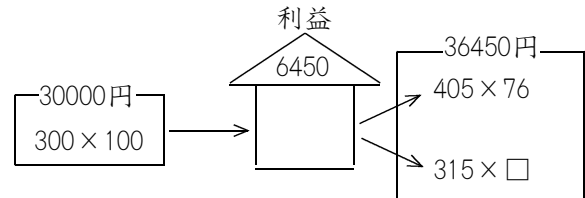


## 練習 4 (2)

**フンポイント** (1)できちんと図を書いてあったら、(2)はカンタンです。

(1)で、右の図のようになっていることがわかりました。

1日目の売り上げは、 $405 \times 76 = 30780$  (円)です。



よって2日目の売り上げは、 $36450 - 30780 = 5670$  (円)です。

2日目は、1個315円で売ったのですから、 $5670 \div 315 = 18$  (個)売れました。

1日目に24個売れ残った品物のうち、2日目は18個売れたのですから、売れ残って捨てた品物は、 $24 - 18 = 6$  (個)です。

練習 5

7ポイント 整理すれば、結局「〇〇算」であることが見えてきます。

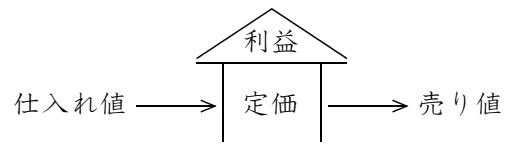
1個の仕入れ値は400円です。

仕入れ値の5割増しの定価をつけたのですから、1個の定価は  $400 \times 1.5 = 600$  (円)です。

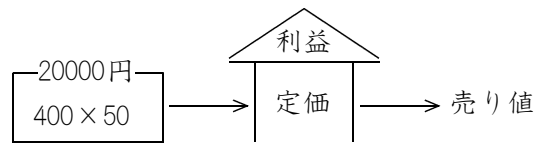
また、1日目に売れ残ったものは、2日目に定価の1割引で売りました。

1割引きというのは、 $1 - 0.1 = 0.9$  (倍)のことですから、 $600 \times 0.9 = 540$  (円)で売りました。

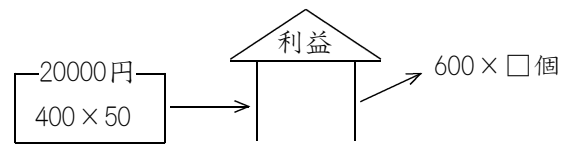
問題文を読んでわかることを、図に  
少しずつ書いていきましょう。



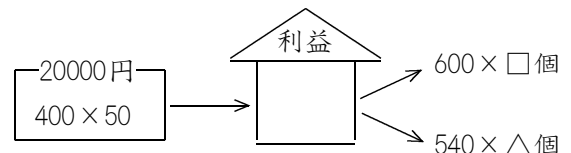
1個の仕入れ値が400円の商品を50個仕入れたので、仕入れ値全体は、 $400 \times 50 = 20000$  (円)です。



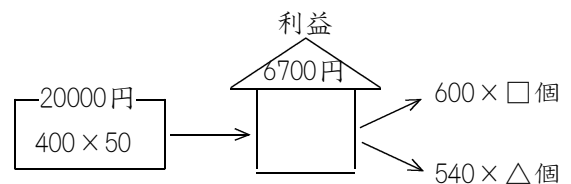
1個600円の定価をつけて、1日目に何個か売りました。



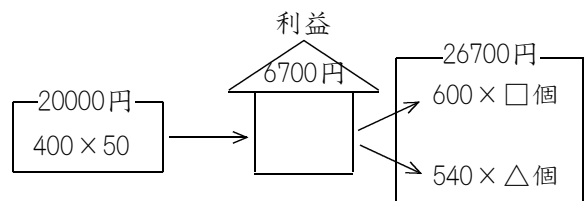
売れなかったものは、2日目に1個540円で残りすべてを売りました。



すると、利益は合計で6700円だったそうです。

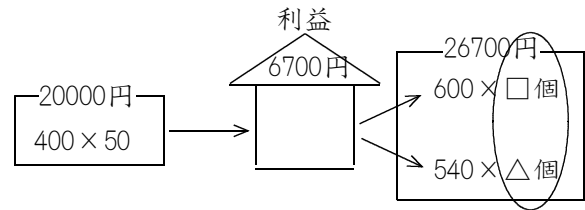


全部で20000円ぶん仕入れて、6700円の利益があったのですから、 $20000 + 6700 = 26700$  (円)ぶん、売れたことになります。



(次のページへ)

しかも、全部で50個仕入れて、4個売れ残ったのですから、右の図の□個と△個の合計は、 $50 - 4 = 46$  (個)です。

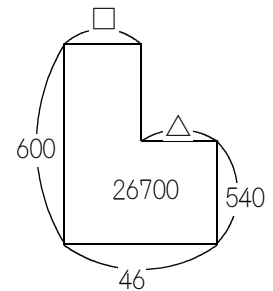


以上整理すると、次のようになります。

1個600円か、1個540円で、  
全部で46個売れて、  
売り値全体は26700円になった。

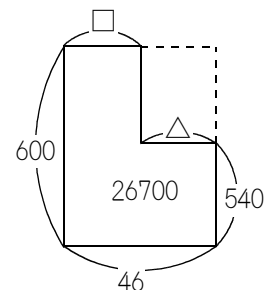
この問題は、「つるかめ算」になります。  
つるかめ算は、面積図を書くミスが少なくなります。

面積図は、右図のようになります。



右図の点線部分の面積は、 $600 \times 46 - 26700 = 900$  で、  
点線の部分のたての長さは、 $600 - 540 = 60$  です。

よって、点線部分の横の長さである△は、 $900 \div 60 = 15$  (個)です。



求めたいのは、定価で売れたメロンの個数、つまり600円で売れた個数ですから、□の個数です。  
よって、答えは  $46 - 15 = 31$  (個)になります。

---

練習 6 (1)

---

7ポイント 「仕入れた分がすべて定価で売れた場合の全体の利益」がわかります。

18000 円という利益は、「仕入れた分がすべて定価で売れた場合の全体の利益」の6割にあたります。

つまり、「仕入れた分がすべて定価で売れた場合の全体の利益」 $\times 0.6 = 18000$  円 です。

よって、「仕入れた分がすべて定価で売れた場合の全体の利益」は、 $18000 \div 0.6 = 30000$  (円) です。

---

練習 6 (2)

---

7ポイント (1)の結果を利用します。

(1)で、「仕入れた分がすべて定価で売れた場合の全体の利益」は30000円であることがわかりました。

250個を仕入れたのですから、「仕入れた分がすべて」というのは、「250個がすべて」という意味です。

よって、250個がすべて定価で売れたら、30000円の利益になることがわかりました。

1個あたり、 $30000 \div 250 = 120$  (円)の利益です。

ところで、仕入れ値の25%の利益を見込んで定価をつけたのですから、1個の仕入れ値を 1 とすると、1個の定価は 1.25 になり、1個あたり、 $\text{span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">1.25$  -  $\text{span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">1$  =  $\text{span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">0.25$  の利益があります。

120円が、0.25 にあたりますから、1 あたり、 $120 \div 0.25 = 480$  (円)です。

1個の仕入れ値を 1 にしたのですから、この品物1個の仕入れ値は **480** 円であることがわかりました。

## 練習 6 (3)

**7ポイント** 問題の内容を整理しましょう。

(2)でわかったこともふくめて、わかったことをまとめると、次のようになります。

- ・ 1 個 480 円で、250 個仕入れた。
- ・ 仕入れ値の 1.25 倍の定価をつけて売ったところ、1 日目はいくつか売れ残った。
- ・ 2 日目に定価の 1 割引きで売りに出したところ、すべて売れた。
- ・ 全体の利益は 18000 円になった。

1 個の仕入れ値は 480 円ですから、1 個の定価は、 $480 \times 1.25 = 600$  (円)です。

2 日目に定価の 1 割引きにしたときは、1 個あたり、 $600 \times 0.9 = 540$  (円)で売りました。

よってさらにまとめると、次のようになります。

- ・ 1 個 480 円で、250 個仕入れた。
- ・ 1 日目は 1 個 600 円で売り、2 日目は 1 個 540 円で売ったら、すべて売れた。
- ・ 全体の利益は 18000 円になった。

仕入れ値全体は、 $480 \times 250 = 120000$  (円)ですから、売り上げ全体は、 $120000 + 18000 = 138000$  (円)です。

つまり、

1 日目は 1 個 600 円で売り、2 日目は 1 個 540 円で売ったら、全部で 250 個売れて、138000 円の売り上げになった。

となり、「つるかめ算」になります。

右図の点線部分の面積は、 $600 \times 250 - 138000 = 12000$  で、  
点線の部分のたての長さは、 $600 - 540 = 60$  です。

よって、点線部分の横の長さである△は、 $12000 \div 60 = 200$  (個)です。

求めたいのは、2 日目に売れた個数、つまり、1 個 540 円で売れた個数  
ですから、答えは **200** 個です。

